

エジプト オレンジは早期の出荷終了を控え高値

[FreshPlaza 2025年5月14日](#)

エジプトではわずかに残った梱包施設も最後の出荷を終えるため、オレンジの出荷シーズンは早期の終了に近づいている。供給量の減少、急激な価格の上昇、長引く紅海の危機等、波乱に満ちたシーズンであったが、輸出業者への補助金の削減はこれらすべてに影響を与えた。

アルマンシ青果会社の輸出部長であるモハメド・シェイカー氏は、「ほとんどの梱包業者はオレンジの出荷をやめた。弊社では、アラブ諸国向けの今シーズン最後の発送を行っているが、ヨーロッパ向けの輸出は既に停止しており、処理能力を下回って稼働している。まだ出荷中の数少ない輸出業者も遅くとも5月中には出荷を終了すると思う。去年は6月末に終了したので、今シーズンは短い」と話す。(以下「」は同氏の話)

この短い出荷期間の背景には、供給量の減少とエジプトの国内需要の劇的な増加がある。すなわち、果汁濃縮工場が繁盛し、生産者にとって魅力的な支払い条件で大量の原料を引き取っている。「今シーズンの輸出量は、生産量の減少、国内需要の競合及び紅海危機の継続的な影響により15%減少した。」

オレンジの供給をめぐる競争は、4月初旬のイードアルフィトル(断食月終了の祝祭)休暇の直後に激化し、価格を新たな高値に押し上げた。「エジプト産オレンジの生産者価格は、休暇の直後に1トン当たり800米ドルに達した。これはこれまで見たことのない水準である。一部の梱包施設がオレンジの出荷をやめることを決定し、その後価格は落ち着いたが今でも高止まりしている。」

昨シーズン(2023/24年度)のエジプト産柑橘類の輸出量は、その前のシーズンに比べて21%増加して200万トンの大台を超え、そのうちオレンジは193万トンであった。1トン当たりの平均価格は、2022/23年度の497米ドルに対し、昨シーズンは474米ドルに下落した。

執筆者: ユーネス・ベンサイド(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

アルゼンチン 米国とブラジルの不作で早生オレンジの需要が増加

[FreshPlaza 2025年5月15日](#)

アルゼンチンは2025年の柑橘類シーズンに、サルスティアーナ、ネーブル、ミッドナイト、バレンシア等の伝統的な品種を出荷する。また、供給を多様化するため、ブラッドオレンジの試験も実施する。しかし、このセクターは、果実が市場に届くずっと前の段階で課題に直面している。高い内部コスト、限られたインフラ、さらに世界の物流システムの緊張が、生産者に直接影響を及ぼしている。

FAMA社のナウェル・ラビーノ代表は、「輸送が1時間遅れる毎に追加のコストが発生し、それが生産者に転嫁され、彼らは農場に投資できない」と話す(以下「」は同氏の話)。この国は良好な自然条件と輸出経験を有しており、同社は42年以上にわたり世界に果実を送ってきたが、南アフリカ、エジプト等の大国に対する競争力を維持するには不十分である。「アルゼンチンは、この2つの国が動かす量の1%も動かしていない。」

主なボトルネックは物流である。アルゼンチンは海上航路の末端にあり、輸送量が少ないことで海運会社の航路から除外されることも多い。「海運会社は、結局のところ我が国を航路から外し、代替の果実輸送手段を提供しない。」このセクターは、出荷の頻度と予測可能性が向上する可能性を求め、海運会社に対して地域として交渉する集団戦略を推進している。そのほか、植物検疫上の障壁と関税により、米国、ヨーロッパ等の重要な市場へのアクセスが制限されている。「その結果、甘い柑橘類を多くの市場に送ることができない。」

「しかし、特に米国とブラジルの生産量の低下によるオレンジの世界的な不足が、チャンスの窓口を開いた。これにより、アルゼンチンの出荷シーズンが始まると同時に、生鮮柑橘類、特に早生品種の需要が高まっている。全般的に非常に良い需要がある。」しかし、同氏は、前述の障害のために、輸出業者がこの状況を活用できない可能性があると明かした。このような中、焦点はアルゼンチン産品が際立つことができるニッチ市場であり、ラビーノ氏は、市場をめぐる戦いには量だけでなく、戦略的な情報も含まれると強調した。

執筆者: ダイアナ・サジャミ (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)